第 2011-06 号

恵みと真理のニュース

2011 年 10 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　恐れの中から救って下さった神様を賛美します。

私は生まれてからずっと江源道(韓国の地名)で暮らしました。結婚して子どもが生れてから、大都市に住んでいる妹が“子どもたちの教育のために経済活動の範囲が広い都会に引っ越しした方がいいよ”と勧めました。当時、私は媤宅の家族によっていろいろ苦労していました。旦那の両親は 6・25 戦争中、故郷だった北朝鮮から南朝鮮へ避難して来て江源道に着き今まで暮らしていました。5 男 1 女の兄弟を産んで育ててくれましたが、旦那の両親はもうお亡くなりました。それだけではなく旦那の兄弟も皆、この世を去りました。それで、私の夫婦が両親の祭祀を捧げるしかない状況になりました。旦那の兄弟が一人、二人、この世を去ることによって私はとても大きな精神的ショックを受けました。一人でいる時間がとても怖くて、夜も眠れなく不安でした。
こんな日常の中から脱したかったし、子どもの教育のために 1992 年、住み慣れた江源道から水源市(韓国の地名)へ引っ越ししました。すべてが不慣れなところでした。しかし、有りがたいことは妹がいたのでとても頼りになりました。妹は暇になったらいつも私にイエス様を信じましょうと伝道をしました。私はそんな妹の伝道が大変辛かったです。なぜなら、祭祀を捧げている家庭なのにイエス様を信じることは正しくないと思われたためです。
私には引っ越しする前から恐怖症がありました。しかし、それは簡単に癒されませんでした。家族皆が寝ている夜中にも、私は眠れなかったので寝返りで足掻きました。ある日は心が爆発するぐらい辛くなって、今にも外へ逃げ出したい衝動まで起きました。私は妹に電話を掛けて今の状態を話しました。妹は私の様子を心配しながらもまた、教会に行こうと言っていました。しかし、私は愚かな者だったので、その辛さの中でも教会に行くことを拒否しました。そのある日、寝返りを足掻いていながらちょっと寝込んですぐ起きました。驚くべきことは按手してもらうと私の口から言っていました。妹に電話して按手は何なのか聞きました。妹は“牧師先生が頭あるいは痛いところに手を置いて祈って下さることだよ。”と教えてくれました。私はその瞬間、もうこれ以上逃げられないと思いました。そして、妹に私を教会に連れて行ってほしいと頼みました。それで 1995 年、恵みと真理教会に出席することになりました。心身がとても疲れている中だったから教会で礼拝を捧げると涙が止まりませんでした。妹に祈る方法を聞いたら言いたいことを正直に神様へ話して最後に「イエス様の御名によってお祈り致します。アーメン」と言えばいいと教えてくれました。私は何も知らず「神様、私の心の中にある恐怖症が消えて夜ぐっすり眠れるように、それで健康な体と心になるようにしてください。」と祈りました。それこそ初めての祈りでした。礼拝後には、当会長先生に按手してもらいました。毎週主日礼拝と水曜礼拝、そして区域長礼拝を妹と一緒に参加して祈っている中、恐れや恐怖症が自然になくなり心が平安になりました。その後、私はいつも手に聖書を持ってまして、暇になると聖書を読み始めました。御言葉はまるではちみつのように甘くて、恵みが溢れました。私を恐れ症から救って下さった神様に感謝する心で、もっと神様に頼りながら暮らしました。そのごろ、私はお店を経営するチャンスがあって店を引き受けました。しかし、IMF のため経営が大変難しくなり、そのお店を売らなければいけない状況になりました。お店のことで祈っているある日、店を契約したいという人が子どもを連れて来ました。大人が店の話に夢中になっている間、子どもは携帯用ガスで遊んでいるうち誤ってガスが爆発する事件が起りました。その子は火傷を負う店は炎に囲まれてしまいました。すぐに、火を消すことができて、大きな火事にはなりませんでしたが、子供の火傷の傷がとてもひどいでした。私も驚きましたが、子どもの火傷の治療が無事に終わって傷跡が残らないようにいつもより必死で神様に祈りました。このことのために教区の人たちが心を合わせて祈ってくれました。それで幸いなことに、その子の火傷は痕も残らず早く治ることができました。私はお店を引き受けるときに権利金を払いました。しかし、そのお店を売ろうとするときには不景気で私が払った権利金さえ期待できなくなりました。それで私は権利金の三分の二をもらえるように神様に祈りました。驚くことに、神様は祈った通りにそのぐらいの権利金がもらえるようにして下さいました。私のすべての事情を知っていて、祈りに答えて下さった神様に決めた感謝献金を捧げました。
2006　年の冬、旦那が労働者側にたって会社と労社間の問題を交渉することになりました。誰も最後まで一緒にしてくれない大変な状況の中で、社員に対する不当な待偶を改善してくれることを求めつつ、会社側と長い戦いをすることになりました。私は旦那のために祈りながら、区域の人たちにも一緒に祈ってくれることを頼みました。神様が私たちの祈りを聞いて下さって無事に解決されました。神様は弱い私を強く、大胆な者へ変えて下さり、その祈りに答えて下さって勝利の人生を歩むようにして下さいました。また、私を救って下さり、不安から脱して下さったこと、祈りに豊かな恵みで答えて喜び溢れる人生を歩むようにして下さる神様に感謝します。私たちへの神様の愛を頑張って伝えながら生きます。アーメン

［信仰コラム］　子狐を捕まえろう。(恐れ)

“『私たちのために、ぶどう畑を荒らす狐や子狐を捕えておくれ。』私たちのぶどう畑は盛りだから。”

聖書で言っているぶどう畑は広い意味ではイスラエルと会を、狭い意味では聖徒の信仰生活と私たちの体や心に適用されています。「子狐」は私たちが見逃しやすいですが、実際、大きな弊害になる何かを意味します。そのような破壊的な性格や否定的概念の情緒の中で「恐れ」という情緒がぶどう畑を壊す子狐である事実と対処する方法を調べてみます。

第一、恐れの原因を調べます。人が恐れを持つようになった根本的な原因はアダムとエバが神様の命令に従わず、善悪の知識の木からその実を取って食べたことから始まりました。その以降、人類はいろんな恐れを持つようになりました。神学者ポルティーリヒは私たちの不安は私たちの存在の根本からくると言いました。それを‘存在の不安’という言葉を使って、死亡への不安、罪責の不安、人生の虚無と無意味の不安、この三つの形態で現れると言いました。そして、ナポレオンヒールは恐ろしさの原因によって貧乏に対する恐れ、失敗に対する恐れ、疾病に対する恐れ、愛の喪失に対する恐れ、年を取って心身が衰えることに対する恐れ、自由の喪失に対する恐れ、死に対する恐れ、この七つに分類しました。

第二、恐れが人に及ぼす打撃と損傷について調べます。人が持つ恐れの感情は血管の中にアドレナリンというホルモンを増加させて心臓の鼓動を早くして、額や手のひらに汗せばむようにします。神経と筋肉が正常的に動けないこともあります。密室恐怖症がある人は密閉された場所にいると酸素供給に異常がなくても呼吸混乱がおきます。しかし、高所恐怖症がある人は高いところに立つと均衡を失ってしまいます。このように恐れによる精神上の緊張はいろんな疾病の原因になります。鉄にコイルを巻いて電流を流すと磁気力が生じ磁石になって金属を引き寄せるように、恐れが心の中に止まっていると、自分が怖がっているのを引っ張ってくることになります。恐れが現実に現すようにします。

第三、恐れを治めることによって、心の平安を味わう方法を調べます。無知と迷信から始まる恐れをきれいに洗い流すべきです。公然と、不安にならないようにすべきです。“人が不安になる原因で40%は過去に対することで、50%はまだ存在してない未来に対することです。残りの10%は現在への不安であります。”と言われています。聖徒は神様の子であり、神様に属している民であります。神様のお守りと摂理を信じても大丈夫です。特に神様が約束して下さった、御言葉は神様が差し伸べている御手であります。
恐れをなくす御言葉を覚えて下さい。人々が一番怖がっていることは死です。しかし、信実な聖徒はどんな恐れも怖さもなく、死の谷間を通ることができます。神様はキリスト･イエスと結ばれている者に恐れを征服して平安と大胆な心で生きていける解決策と対策を与えて下さいました。
私たちが神様の御言葉をもっているからこそ、受けられる平安と大胆は神様が下さるのです。このように、大胆な心と平安をもっている人は毎日、毎瞬間その恐れを制圧して退かすことができます。

“恐れるな。わたしはあなたとともにいる。たじろぐな。わたしがあなたの神だから。わたしはあなたを強め、　あなたを助け、わたしの義の右の手で、あなたを守る。”（イザヤ41章10節）

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

あなたかたはこう祈りなさい。

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

聖書：マタイ6章9節～13節

信仰生活は祈の生活と言っても違わないです。祈りのない信仰生活はまるで、泉の源が乾いた井戸、根のない木のようです。発展と向上が止まって、退歩します。私たちの一日は、祈りから始まって祈りながら進行し、祈りで終わらなければなりません。どう祈れば良いかを問う人に＜祈ることはそんなに難しくありません。ただ心の望みを神様に申し告げるのです＞と答えるのは間違ってませんが充分な答えではありません。なぜなら、質問する人は祈りのコツが知りたいからです。弟子たちもイエス様にこのような要請をしたことがあります。
するとイエスは弟子たちに＜だからこう祈りなさい＞と話しながら次のように教えました**『天にまします我らの父よ。願わくは御名を崇めさせたまえ。御国を来たらせたまえ。みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ。我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。我らに罪をおかす者を、我らが許すごとく、我らの罪をもゆるしたまえ。我らをこころみにあわせず、悪より救いいだしたまえ。国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン』**
主様が教えて下さった主の祈りは、すべての祈りの見本です。非常に簡潔でありますが完璧で豊かな内容を含めています。＜天にまします我らの父よ＞と呼称を呼びながら祈りが始まります。わたしたちのすべての祈りは＜天にまします我らの父よ＞に求めるべきです。そうでないと迷信的な行為に過ぎません。天におられる我らの父は、聖書に啓示された神様です。
神様を＜天にまします我らの父＞と呼ぶことは様々な意味があります。神様はただ一人のお方である事実を示します。神様は我らの父なので私たちに愛と関心を持って面倒を見てくださることを話してくれます。罪人を憐れんで救うため独り子をこの世に送って下さった我らの父です。天地を創造して無所不在でおられる全能の神様です。イエスは私たちが祈るとき、愛と権能が無限な父である神様に告白して求めるべきのことを教えて下さったのです。これからはイエス様が教えた祈りを三つに分けて内容を詳しく説明して上げます。

第一、自分が神様と正しい関係で結ばれた生活をするために求める祈りです。

＜御名を崇めさせたまえ＞です。神の御名が崇めさせたまえと祈ることは、私たちの行為で神の御名が崇められるようになるという意味ではありません。聖なるは神様の本性なので＜御名が崇めさせたまえ＞と言うのは、私たちが神の聖なる御名に相応しい尊貴と栄光をささげながら生きることを願って求めるのを意味します。ですから、私たちは神様の聖なる御名に相応しい考えや言葉づかい、行動をするように力を尽くすべきです。
次は＜御国を来たらせたまえ＞です。これは従順する生活への祈願です。＜神の国＞とはイエスがのべ伝えたメッセージの核心でした。＜神の国＞または＜天国＞という用語はマタイの福音書で 49 回、マルコの福音書で 16 回、ルカの福音書で 38 回も書かれてあります。福音は神様の国へ招待するメッセージです。こういう招待に対して従順するか拒むかは、個人個人が決める義務です。（マタイ２２：１～１４、ルカ１４：１６～２４）＜御国を来たらせたまえ＞と言うことは神様の治めに従順する生活への祈願することです。
その次は＜みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ。＞です。人間に向かう神様の善なみこころが私たちの生の中で表れ叶えるのを祈願することです。神の主権を認め、神の治めに従えば神の善なみ心がこの世で叶えるのを経験できます。神のみこころは義と平和、健康と富を得るようにすることです。
私たちは自分の望みを実現するために力を果たさないで主様が願う者になれるため力尽して生きるべきです。

第二、自分の生活に必要なあらゆることや危険からの助けを求める祈りです。

『我らの日用の糧を、今日も与えたまえ』とあります。　今日の必要な物に対する祈りです。日用の糧を求める祈りを青臭い祈りだと思ったら大間違いです。神様は宇宙と歴史を主観するとてもすばらしい働きを果たしておられますが一方では、ご自分の民、ご自分の子供に必要な糧を供給てくださいます。**『日用の糧』**はその日に必要なものを求めるので貪慾が入ってない祈りです。
次は＜我らに罪をおかす者を、我らが赦すごとく、我らの罪をもゆるしたまえ＞とです。先の日に犯した過ちを赦してもらうために祈願するのです。
人間関係における許しに対する聖書的な概念は無条件的な許しではありません。
イエス様はもし兄弟が罪を犯したら、戒めなさい。そして、悔い改めれば、赦してやりなさい。（ルカ 17:3,4)人間が存在する目的は創造主を礼拝し、仕えるためです。このような目標から外された生活は神への犯罪です。この罪を悔い改めて許される道は一つだけです。
イエス･キリストを信じて受け入れなければなりません。これが救いを得る悔い改めです。
救われた聖徒は聖徒らしく生きるべきの目標が与えられます。このような目標から外れた行動を悔い改めなければなりません。神様は悔い改める祈りに耳を傾けて聖徒らしい生活が出来るように助けてくださいます。
その次は**『我らをこころみにあわせず』**です。この世にに生きている間、誘惑や試練に陥らない人間はだれもいません。
私たちは試みをなくしてくださいと祈ることではなく、試みに勝てる力を求めるべきです。試みに陥らないように祈る者は試みを乗り越える力を主様が与えてくださいます。
その次は**『悪より救いいだしたまえ。』**です。これは＜悪者から救ってください＞という意味です。
聖書には悪魔を＜悪しき者＞と言っています。悪魔は人間に悪を行うように誘惑します。悪魔をサタンといいます。＜サタン＞という名は＜敵対者＞という意味があります。悪魔という名には讒訴者という意味があります。人々の間を讒訴してお互いに不和させます。人間と神様の仲に不和を招き断絶します。そして人間を滅びに至らせます。世の中は悪しき者に属されているので、皆様は悪いサタンの計略に陥らないように祈るべきです。

第三、永久の神様を賛美して自分の信仰を確証する内容です。

『国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。』です。
世の国は興亡盛衰があります。神様の国は永遠です。人間の権力は時が経つと空しくなります。神の権力は永遠です。人間の光栄は草と花のようで、すぐ枯れて終うのですが神様の光栄は永遠です。将来に神様から与えられる光栄も永遠です。その光栄は人をキリストに導いた者が頂けます。主の働きに熱心を尽くした者が頂けます。キリストと福音のために苦難を受ける者が頂けます。**『国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。』**という信仰告白は永久の神様の民となり、永久の神なる父の子供になった私たちが永遠に歌う賛美です。主様が教えられた祈りは＜アーメン＞で終わっています。
＜アーメン＞は＜そのとおりになりますように＞という意味で使われます。今まで説明した内容は簡単にまとめますと、次のようです。
神様を向い**『天にまします我らの父よ』**と呼べる人は次のような内容で祈るべきです。これは人が追求する生の究極的な目標で目的です。これは聖なる生涯を送るための祈願です。神様の国が臨むように祈ります。これは神の治めに全的に従う生涯を送るための祈願です。私たちの生活の現場で神の御心が果たせるように祈ります。これは神の御心を全的に信頼する生涯を送るための祈願です。
次は私たちの生活に必要なすべての物と助けを求めるべきです。
必要な糧を求めます。これは今日の必要に対するお願いです。優しくて豊かな父なる神に求めなければなりません。罪を許していただけるように求めます。これは先日に犯した罪を赦しを求めるのです。イエス･キリストの購いを信じて求めるべきです。試みに遭わせず、悪より救ってくださるように求めなければなりません。これは未来に直面する危険から助けてくださることを求めるのです。聖霊様の助けを強く頼りながら求めなければなりません。最後に神の永久を賛美しながらアーメンで確信を表明しなければなりません。
＜主の祈り＞は私たちの存在全体を神に捧げる祈りでまた、神様を私たちの生活のすべての領域に仕えて入れる祈りです。そしてあらゆる望みを含めた祈りです。＜主の祈り＞が皆様の生活と祈りに適用と活用されて、感動や恵まれた体験が溢れるように祝福致します。